

■小川又次 陸軍戦略の先駆者。メッケルから日本陸軍にオガワあり'といわれ、山県有朋には“今謙信”と評された。

おがわまたじ

・ ・ ・ ・ ・ 1848= 小倉城下で、藩士小川兼宣の長男に生まれる。

ペリー来航・1853= 5歳：

幼時から知力抜群で、腕力、体力もあり、

蕃書調所・ ・ 1857= 9歳：

桜田門外変・1860=12歳：

この頃、父に連れられて、江戸に出、江川塾に入門、

3年間、洋式兵術などを学んで、帰藩。

薩長同盟・ ・ 1866=18歳：*第二次長州征伐で最激戦地となった小倉の戦いで、藩の同僚奥保鞏とともに登場、落城に至るも、“鬼又”の異名をとる。

明治維新・ ・ 1868=20歳：

初の日刊新聞1870=22歳：全国各藩から選ばれた若者の一員として、_大阪の青年学舎(兵学寮)生徒となる。

廃藩置県・ ・ 1871=23歳：権曹長心得となり、少尉心得を経て、

学問のすすめ1872=24歳：少尉に昇進。

明治6年政変 1873=25歳：

佐賀の乱・ ・ 1874=26歳：台湾征討軍に従軍。

初の民間工場1875=27歳：東京鎮台歩兵第1連隊付となる。

三つの反乱 1876=28歳：熊本の歩兵第13連隊大隊長に就任すると、神風連の乱を鎮圧し、

西南戦争・ ・ 1877=29歳：*西南戦争で、熊本城の攻防で重囲を打ち破って勇名を轟かし、戦傷を癒した後、九州転戦。少佐に昇進。

大久保暗殺 1878=30歳：熊本鎮台参謀副長となり、

琉球処分・ ・ 1879=31歳：参謀本部管西局員に異動、

・ ・ ・ ・ ・ 1880=32歳：_清国探査に派遣される。

明治14年政変1881=33歳：中佐に進級し、大阪鎮台参謀長に就任。

新体詩抄・ ・ 1882=34歳：広島鎮台参謀長に転じ、

秩父事件・ ・ 1884=36歳：大佐に進級し、歩兵第8連隊長に着任。

内閣発足・ ・ 1885=37歳：_参謀本部管西局長を経て、同第2局長に就任。この年、日本陸軍大学校教官に着任したメッケルの講義に、第1局長児玉源太郎と傍聴、メッケルを感激させ、次の講義ではメッケルと野砲山砲論争、

帝国大学始 1886=38歳：_再び、清国に赴き、意見書「清国征討策案」を提出。

初の対等条約1888=40歳：_メッケル退任の最後を飾る演習で、児玉と対峙する攻防戦で臨み、唯一人作戦に賛辞を受け、'日本陸軍にオガワあり'とされるも、器狭いことを残念がられる。

帝国憲法発布1889=41歳：

帝国議会始 1890=42歳：_三河での天皇臨席の陸海軍連合大演習に、田村怡与造のもとでまとめ役を果たし、陸軍少将に昇進し、歩兵第4旅団長となり、

大本教・ ・ ・ 1892=44歳：*宇都宮での第1回陸軍特別大演習に臨んで、山県有朋の目にとまり、田村が川上操六から“今信玄”と評されたのになんで、“今謙信”の評を与えられる。

郡司千島探検1893=45歳：近衛歩兵第1旅団長を経て、

日清戦争始 1894=46歳：山県第一軍司令官に求められ、_第1軍参謀長として日清戦争に出征。田村との間に確執、

日清戦争終 1895=47歳：山県解任後、_海城で苦戦するも、田庄台の戦を知略で制し、勝利に導いて帰国。軍功により男爵。

白馬会・ ・ ・ 1896=48歳：近衛歩兵第2旅団長に転じ、

八幡製鉄始 1897=49歳：陸軍中將に進み、第4師団長となり、

子規句歌革新1898=50歳：和歌山での第2回陸軍特別大演習に臨む。

教科書疑獄 1902=54歳：かねてより源為朝の末裔であることを誇りとし、この年、自らの墓地用意を兼ねて“為朝噴”を建立。

日比谷公園 1903=55歳：勲一等瑞宝章。

日露戦争始 1904=56歳：_日露戦争では第4師団を率い、南山の戦で日本軍の起死回生させて、その知謀ぶりを見せつけ、得利寺も勝利に導いて、ロシア軍を敗走させるが、遼陽会戦で負傷し、師団長を辞して帰国。

日露戦争終 1905=57歳：*陸軍大将となるが、まもなく休職となり、

韓国反日暴動1907=59歳：子爵に進むとともに功二級金鵄勲章。予備役編入となり、

伊藤博文暗殺1909=61歳：_没した。